

園児と中学生との交流等に係る アンケート調査の集計結果

■ 調査時期：令和4年6月～7月

■ 対象施設：佐賀県内の保育所、認定こども園、幼稚園

■ 回答数：239施設／310施設（回答率77.1%）

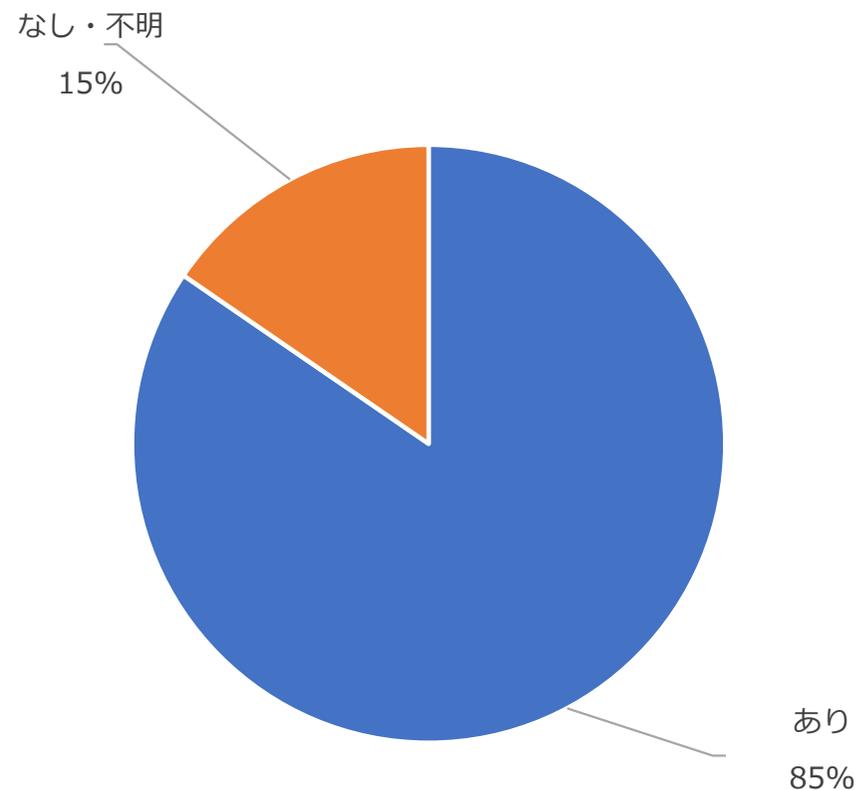
内訳	保育所	：117施設
	保育所型認定こども園	：15施設
	幼稚園	：25施設
	幼稚園型認定こども園	：14施設
	幼保連携型認定こども園	：68施設

I. 園児と中学生との交流について

平成29年度～令和元年度まで（コロナ禍以前の約3年間）の状況

■ 交流の機会の有無

項目	合計	
あり	202	85%
なし・不明	37	15%
合計	239	100%

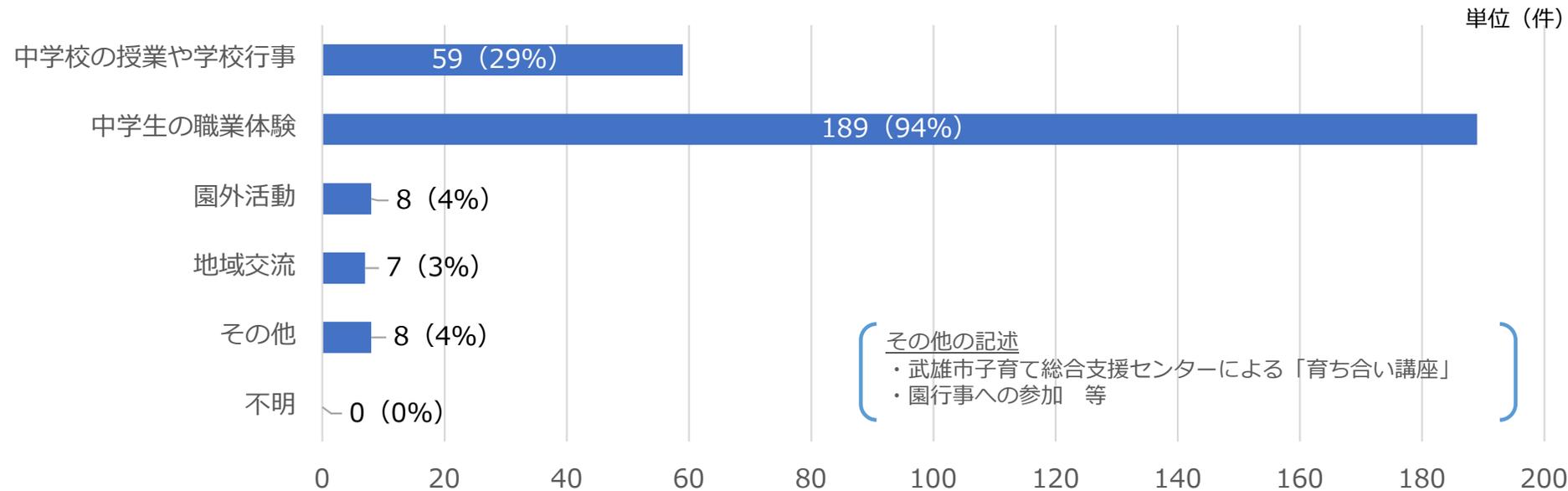


I. 園児と中学生との交流について

平成29年度～令和元年度まで（コロナ禍以前の約3年間）の状況

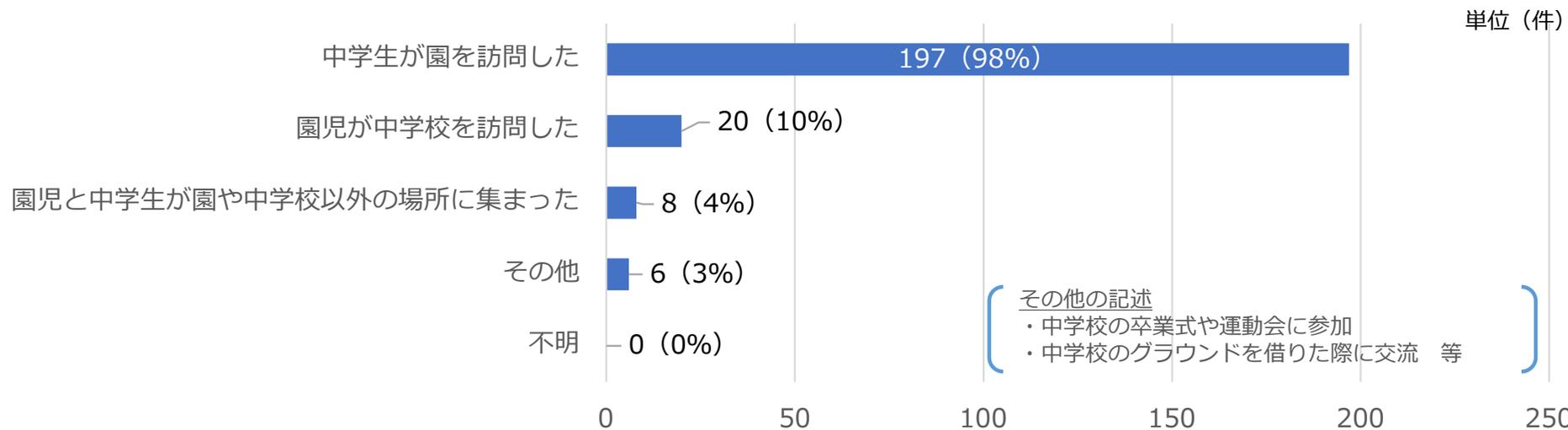
■ 交流の機会（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍以前の3年間に、園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（202施設）のみを対象とした設問



■ 交流の形式（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍以前の3年間に、園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（202施設）のみを対象とした設問

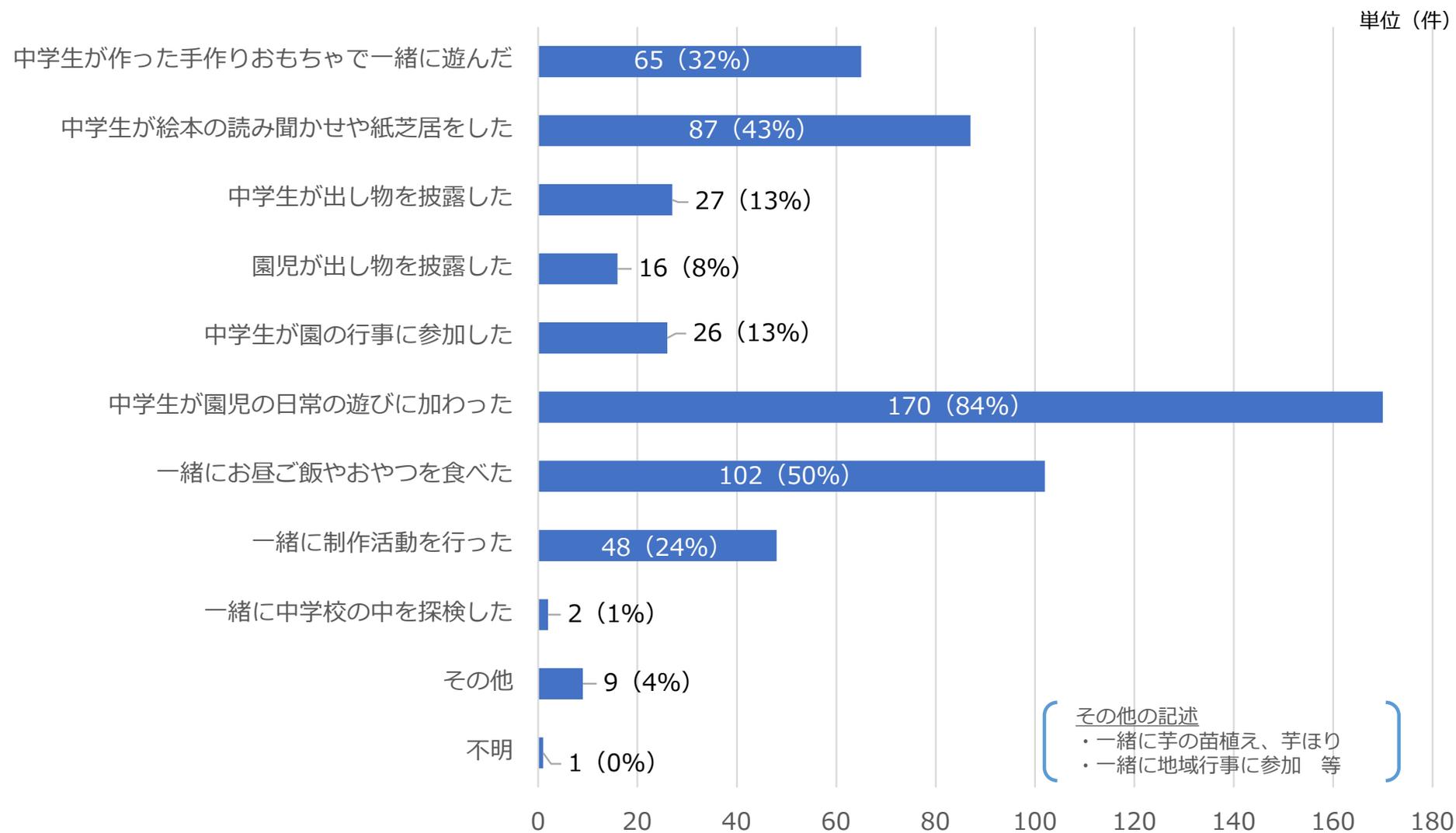


I. 園児と中学生との交流について

平成29年度～令和元年度まで（コロナ禍以前の約3年間）の状況

■ 交流の内容（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍以前の3年間に、園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（202施設）のみを対象とした設問

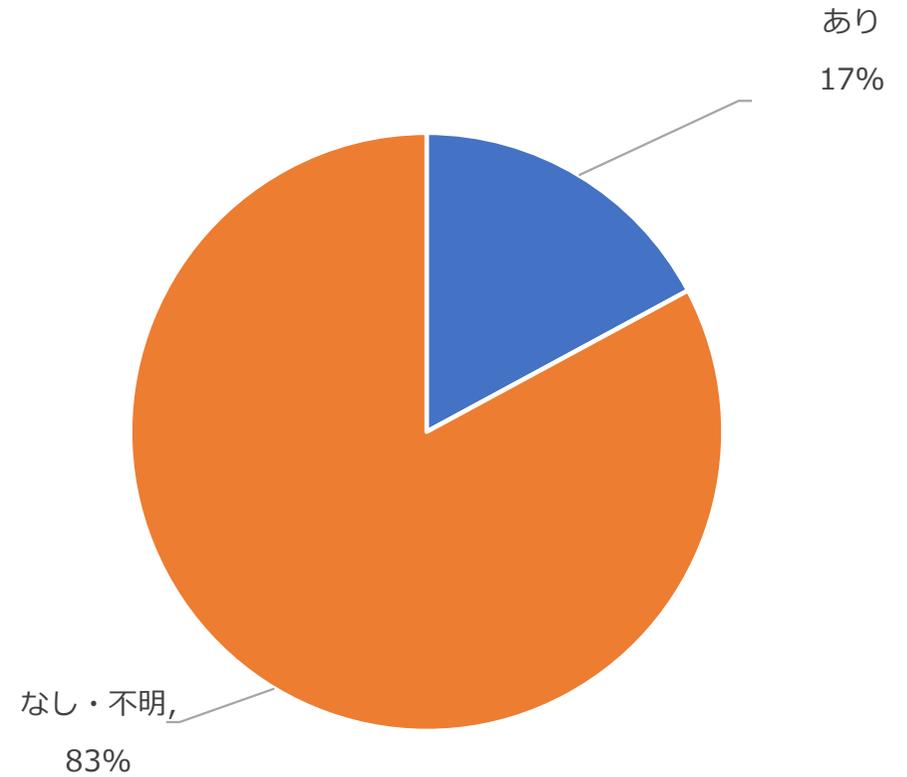


I. 園児と中学生との交流について

令和2年度から（コロナ禍）の状況

■ 交流の機会の有無

項目	合計	
あり	41	17%
なし・不明	198	83%
合計	239	100%

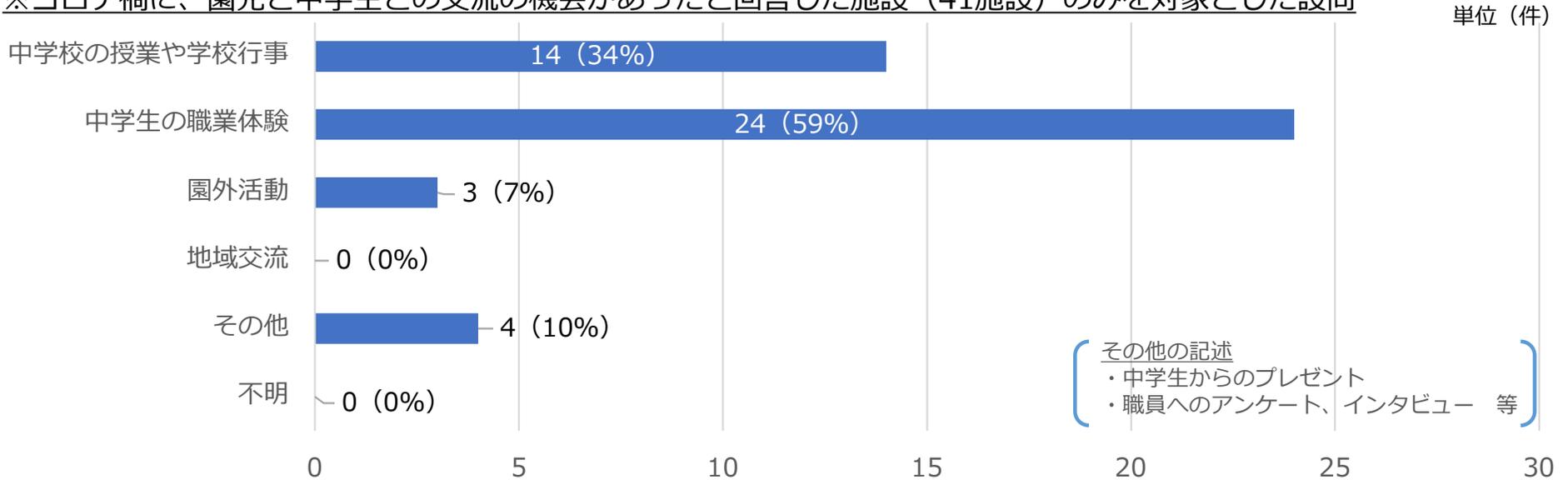


I. 園児と中学生との交流について

令和2年度から（コロナ禍）の状況

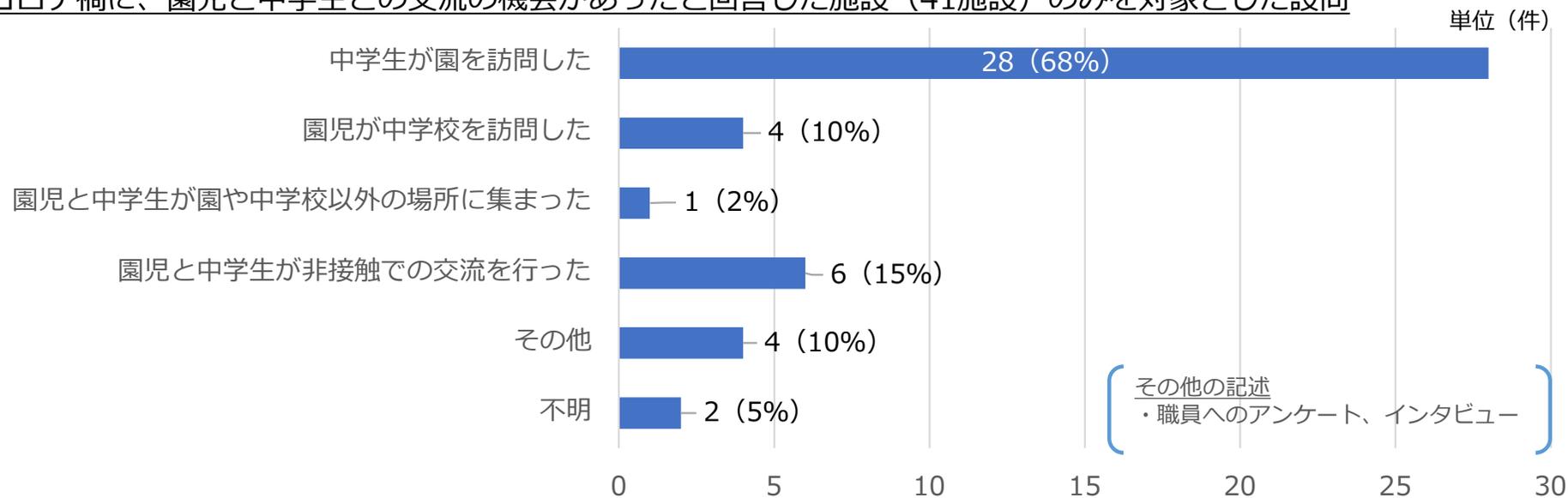
■ 交流の機会（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍に、園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（41施設）のみを対象とした設問



■ 交流の形式（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍に、園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（41施設）のみを対象とした設問

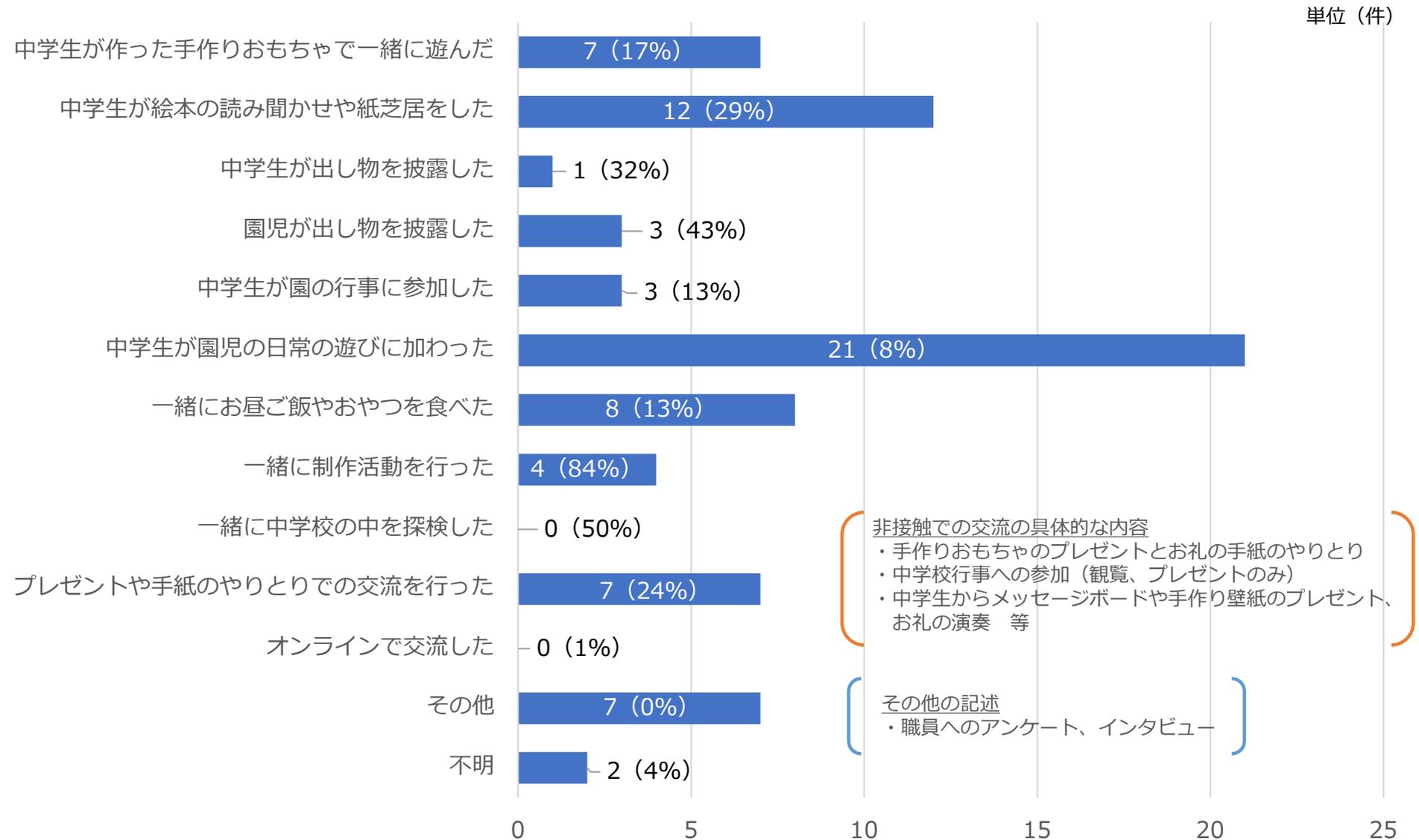


I. 園児と中学生との交流について

令和2年度から（コロナ禍）の状況

■ 交流の内容（当てはまるものすべてを選択）

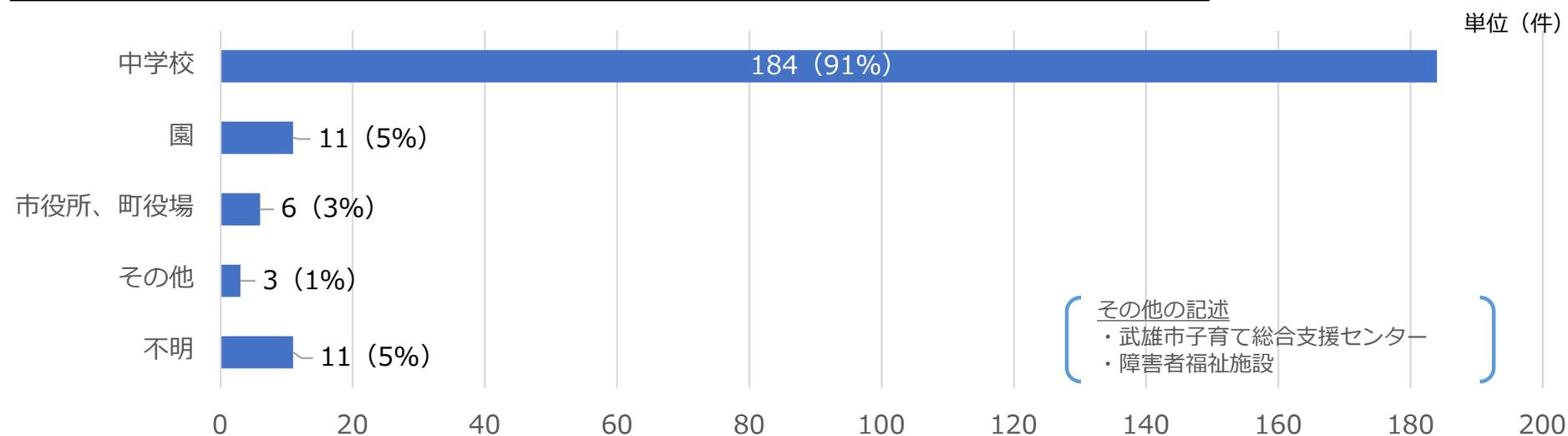
※コロナ禍に、園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（41施設）のみを対象とした設問



I. 園児と中学生との交流について

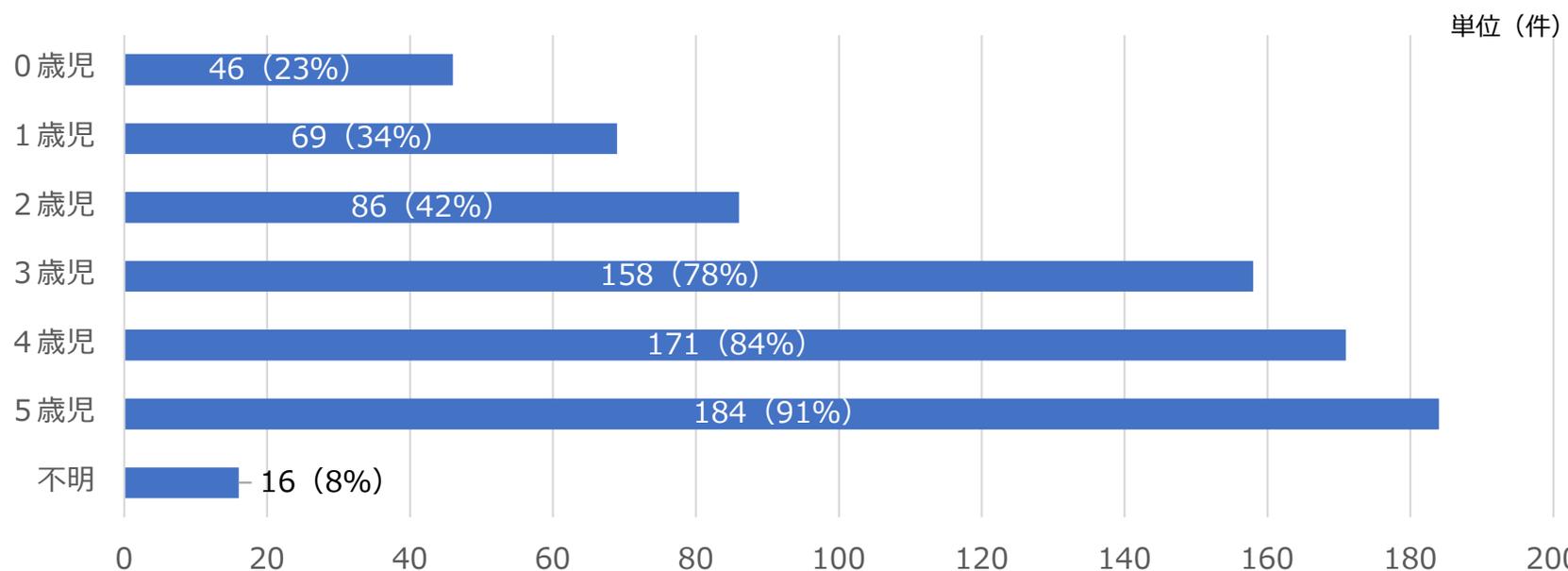
■ 園児と中学生との交流の提案者（当てはまるものすべてを選択）

※園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（203施設）のみを対象とした設問



■ 中学生と交流したクラス（年齢）（当てはまるものすべてを選択）

※園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（203施設）のみを対象とした設問

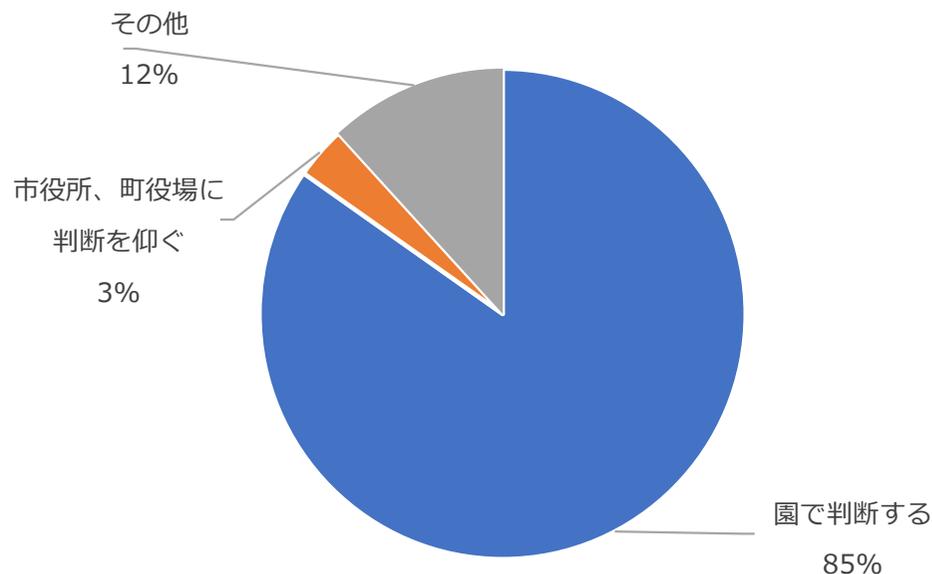


I. 園児と中学生との交流について

■ 交流の可否の判断

※園児と中学生との交流の機会があったと回答した施設（203施設）のみを対象とした設問

項目	合計	割合
園で判断する	172	85%
市役所、町役場に判断を仰ぐ	7	3%
その他	24	12%
合計	203	100%

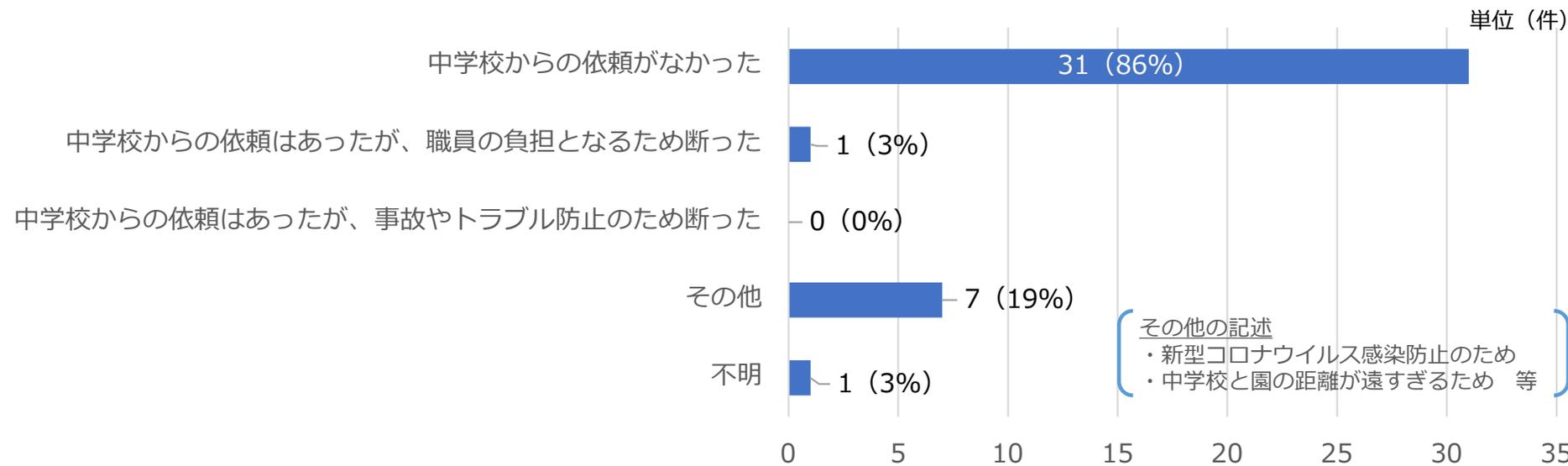


その他の記述

- ・子育て支援センターで判断
- ・園と中学校で協議
- ・場合によっては役所に相談
- ・教育委員会や中学校
- ・近隣の園と相談のうえ判断 等

■ 園児と中学生との交流の機会がなかった理由（当てはまるものすべてを選択）

※園児と中学生との交流の機会がなかったと回答した施設（36施設）のみを対象とした設問



その他の記述

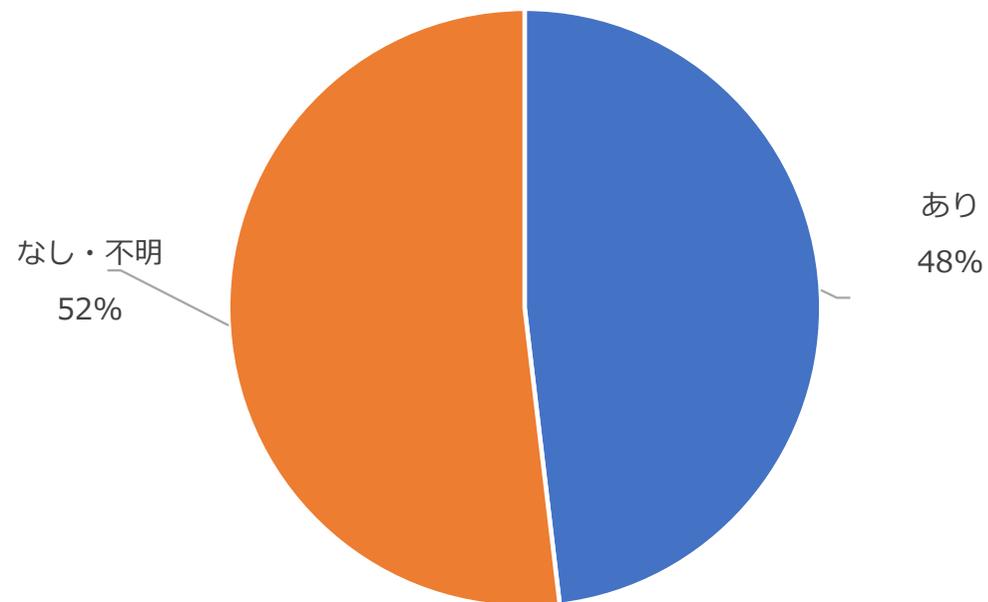
- ・新型コロナウイルス感染防止のため
- ・中学校と園の距離が遠すぎるため 等

Ⅱ. 園児と高校生との交流について

平成29年度～令和元年度まで（コロナ禍以前の約3年間）の状況

■ 交流の機会の有無

項目	合計	
あり	115	48%
なし・不明	124	52%
合計	239	100%

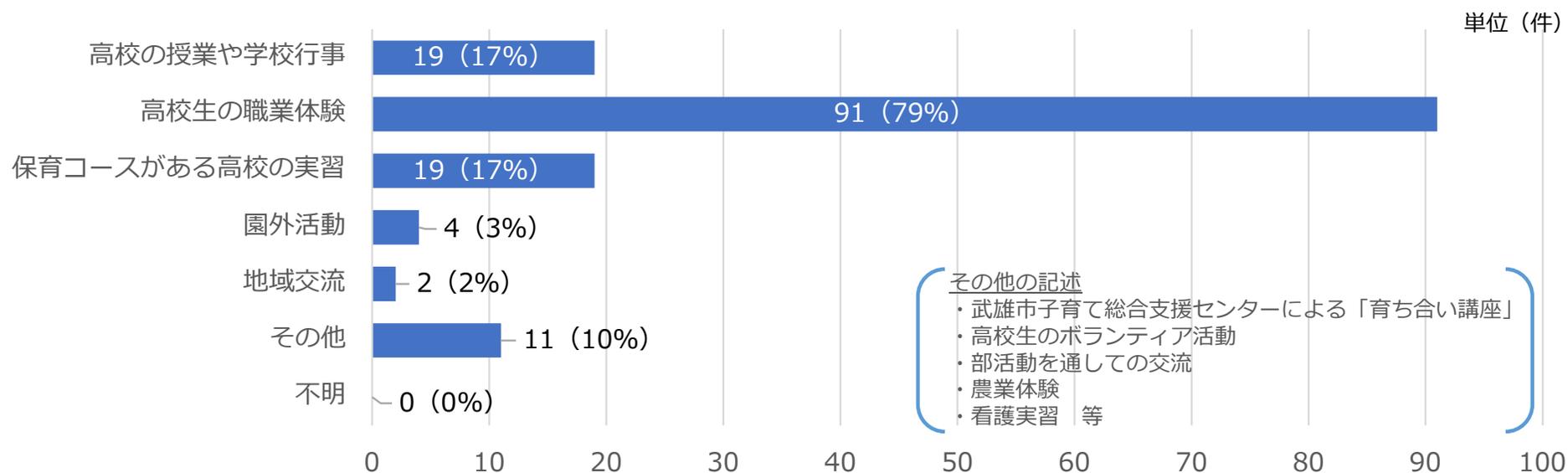


Ⅱ. 園児と高校生との交流について

平成29年度～令和元年度まで（コロナ禍以前の約3年間）の状況

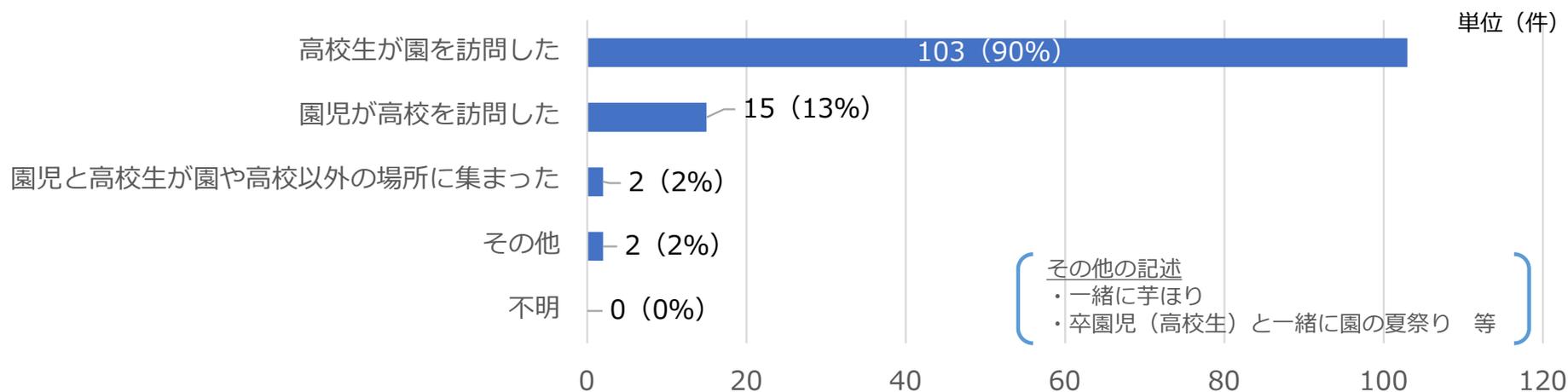
■ 交流の機会（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍以前の3年間に、園児と高校生との交流の機会があったと回答した施設（115施設）のみを対象とした設問



■ 交流の形式（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍以前の3年間に、園児と高校生との交流の機会があったと回答した施設（115施設）のみを対象とした設問

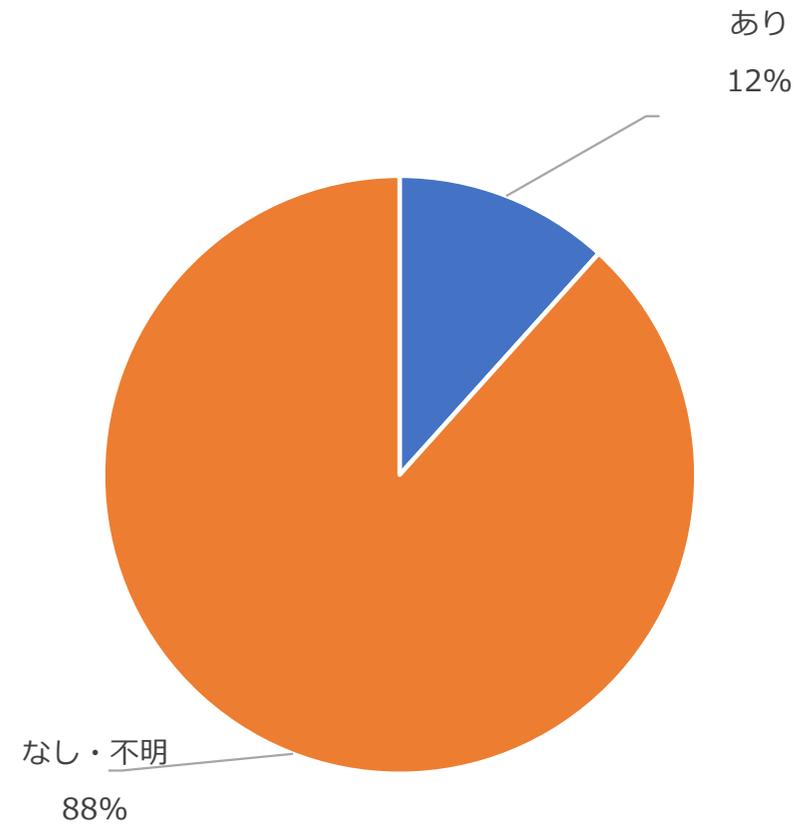


Ⅱ. 園児と高校生との交流について

令和2年度から（コロナ禍）の状況

■ 交流の機会の有無

項目	合計	
あり	28	12%
なし・不明	211	88%
合計	239	100%

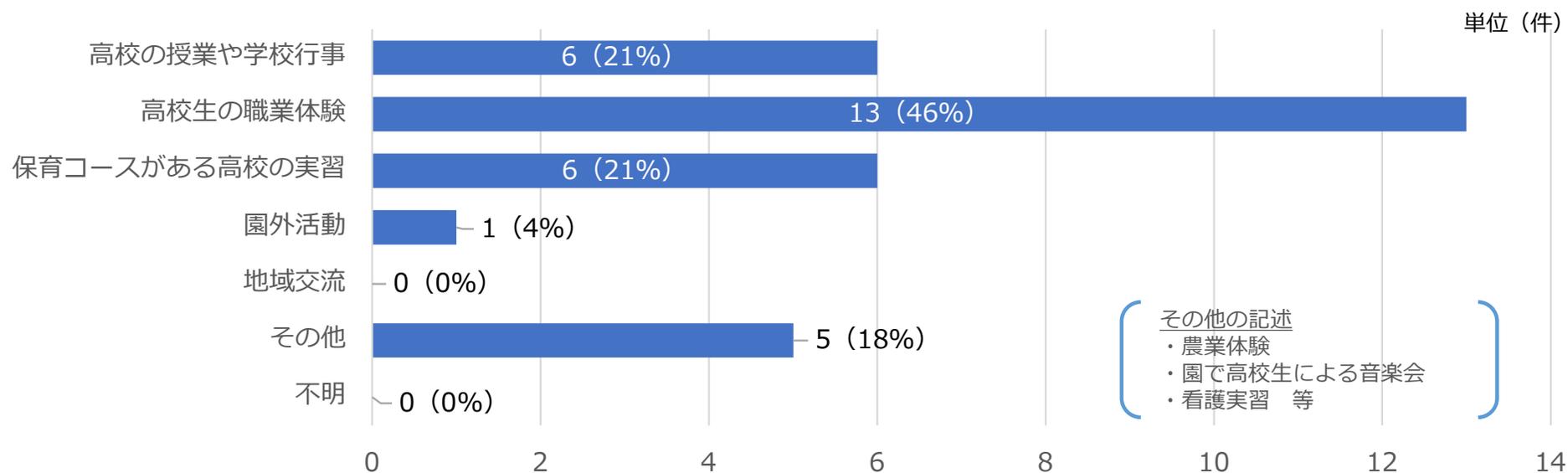


Ⅱ. 園児と高校生との交流について

令和2年度から（コロナ禍）の状況

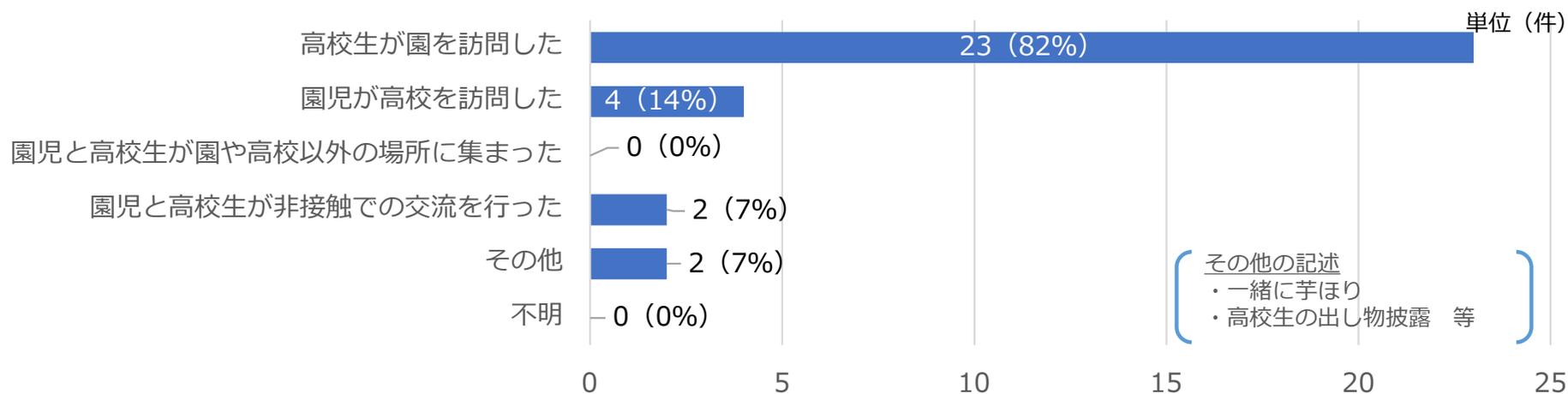
■ 交流の機会（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍に、園児と高校生との交流の機会があったと回答した施設（28施設）のみを対象とした設問



■ 交流の形式（当てはまるものすべてを選択）

※コロナ禍に、園児と高校生との交流の機会があったと回答した施設（28施設）のみを対象とした設問



■中学生との交流で、園や園児にとってよかったと感じられたこと（自由記述）

【園児にとってよかったこと】

- ・園児の普段と違った様子や新たな一面、成長が見られた。
（普段人見知りをする子が積極的に関わろうとしていた、普段リーダー役の子が甘える姿が見られた、コミュニケーションが上手になった 等）
- ・遊び方など、多くの刺激を受けることができた。
- ・兄弟が少ない家庭が多い中、様々な世代と接する良い機会となっている。
- ・日頃触れ合う機会がない中学生と遊ぶことができるとても楽しそう、満足そうだった。
- ・優しく接してくれる中学生の姿が、年下の子へのかかわり方のお手本となった。
- ・優しく接してもらったり、たくさん褒めてもらえたりすることで、園児の自信や自己肯定感を養うことにつながる。
- ・成長することへの期待感や憧れにつながった。

【園や地域にとってよかったこと】

- ・卒園児が成長した姿を見ることができた。
- ・園児のときに気になる子として見ていた子の成長（園児に優しく接する等）を見て、幼児期の姿で決めつけてはいけないという教訓になった。
- ・後日園児と中学生が互いに挨拶を交わすようになるなど、つながりができた。
- ・ふれあい体験を通じて、「保育者になりたい」という学生がいた。
- ・保育者を目指している中学生に保育現場のこと、保育者のことを知ってもらえた。
- ・体験学習を通じて、子どものことをかわいいと思えたと聞いて嬉しかった。
- ・地域の中学生のことを知ることができた。
- ・園児の様々な反応を見ることができ、保育の参考になった。
- ・職員のプロ意識が高まった。

■園にとって、こんな活動ができたらいいなという想い（自由記述）

- ・中学校を訪問して、中学校での交流や中学校探検をしてみたい。
- ・園行事に参加してほしい。中学校の行事に参加したい。
- ・一緒に地域行事に参加したい。
- ・絵本の読み聞かせなど、オンラインでできる交流をしてみたい。
- ・1回だけでなく、複数回交流の機会を持ちたい。
- ・卒園児に訪問してほしい。
- ・作物を一緒に育て、それを一緒に収穫し、一緒に味わうことができたらいいと思う。
- ・一緒に遠足をしてみたい。
- ・一緒に外遊びを思いっきりしたい。
- ・一緒に環境問題に関する取り組みやボランティア活動をしたい。
- ・園で必要なものを考えてもらい、工夫して作った棚やおもちゃをもらえると嬉しい。
- ・中学生がどんなことをやりたいのかを引き出したい。
- ・中学生が、幼いころ自分もこんなに愛されていたんだと認識できるような体験にしたい。
- ・不登校気味の中学生が、園で保育者体験をしてみるというのもよい。
- ・災害時を想定した訓練を一緒に行いたい。
- ・中学生の（ふれあい体験に関しての）発表の場を見たい。
- ・保育現場や保育者のことを中学校に話しに行く機会があるとよい。

■園児と中学生・高校生との交流に係る意見（自由記述）

【交流の意義について】

- ・ 幼児とのふれあいを通じて、自分の小さかった頃のことを思い出し、家庭や園でこんな風に大切に育てられてきたんだと振り返るきっかけとなるような場になればと願っている。
- ・ 実際に乳幼児と接することで、命のかけがえのなさに気づく機会になる。
- ・ 園児との関わりを通して中学生が自信を持つことができる。
- ・ 幼児と過ごす楽しさを味わう貴重な機会。
- ・ 思春期の中学生にとって、幼児と触れ合うことで、童心を取り戻したり、優しく穏やかな気持ちになったりできる貴重な機会。
- ・ 将来子どもができたとき、交流の経験が、子どもをかわいがることにつながるのではと思う。
- ・ 中学校での姿とは異なる表情や行動が見られ、中学校の先生が驚き、喜ぶ場面があった。
- ・ 園児にとっても、中学生・高校生にとっても、異年齢交流は良い経験になる。
- ・ 学生からプレゼントでもらったおもちゃが今も残っていて、子どもたちが使い続けており、ずっと心にも形にも残っている。
- ・ 保育の現場を知ること、将来保育者を目指すきっかけや学びの場となればいい。
- ・ ふれあい体験がきっかけで保育者になり、園に就職してくれた職員がいる。

【交流の機会について】

- ・ 交流の機会がもっとたくさんほしい。
- ・ （高校の場合）学科の特性を活かした交流ができるとよい。
- ・ コロナ禍で交流が途絶えており、寂しい思いをしている。交流を再開したい。

【事前学習等について】

- ・ 体験をする前に、乳幼児の特性などについての学習や、関わり方の指導を行ってほしい。
- ・ ふれあいの中で不安を感じる場面もあり、目的意識をしっかりと持って参加してほしい。
- ・ 子どもに興味がない生徒もあり、対応に苦労したことがあった。